

別紙様式 4

平成 22 年度サバティカル研究者 (B 若手) 研究成果報告書

平成 23 年 3 月 8 日

福岡教育大学長 殿

所属講座 国際共生教育講座
職名 准教授
氏名 竹元 規人

受入大学・学部等名

清華大学 人文社会科学学院 哲学系

受入教員の職・氏名

曹峰 教授

研究期間

平成 22 年 9 月 6 日 ~ 平成 23 年 3 月 5 日

研究題目

中国近現代学術の思想・制度・人物に関する研究

研究成果概要 (800 字程度又は別紙添付)

清華大学図書館及び檔案館において、主に1920~30年代の清華大学校史史料を閲覧し、当時の大学の制度及び運営のあり方、カリキュラムとその変更・運用、教員の研究計画とその学術思想、学生生活と修学状況等について網羅的な調査を行うことができた。現在清華大学については、理工系の大学というイメージと、国学研究院を設立して西洋近代学術を摂取しつつ伝統学術を発揚した大学というイメージが見られるが、これらは共に歴史的には不正確である。清華大学は、元来アメリカ留学予備校として発足した経緯とも関わり、当時の中国において、文理の全般にわたる学術の西洋化・近代化の最大の拠点であった。清華大学のこうした最も基本的な性格を改めて重視し、そしてこの観点から、北京大学等他の代表的な大学との現在に至る歴史的比較を進める必要がある。今回の調査によって、この作業を進めるための基盤を整えることができた。また、中国国家図書館(北京)所蔵の『新晨報』『北平晨報』『世界日報』の「教育界」欄を収集閲覧し、1920~30年代の北平(北京)を中心とした学術界・教育界の動向について時系列的に跡付けることが可能となった。これら内容については、今後論文等として発表していく予定である。

北京滞在中に、折しも報告者が十年来研究してきた、20世紀中国の代表的な歴史学者の一人・顧頡剛(1893-1980)の全集が刊行され、その記念会・討論会(12月25日、於北京香山)に参加することができたのは幸いだった。

2月26日から3月2日にかけては、広州の中山大学歴史学系の依頼により学部生・大学院生を対象とした「中山史学講座系列」を2回担当し、最近の自らの研究成果を発表した。その発表内容とも関連して、自らの博士論文を中国語に翻訳する作業も進めた。